

1 9 9 7

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAME GAKUEN COLLEGE

目次(専攻科)

専攻科保育専攻

人間論	3
現代保育論	4
保育計画論	5
保育環境論	7
保育人間関係論	8
保育研究法	9
あそび分析法	10
集団保育論	11
小児医学	12
生活習慣習得論	13
乳児保育論Ⅰ(母子関係)	14
乳児保育論Ⅱ(探索活動)	15
乳児保育論Ⅲ(信号・言葉)	16
幼児の保育構造論	17
保育内容研究Ⅰ(自然認識)	18
保育内容研究Ⅱ(社会認識)	19
保育内容研究Ⅳ(表現②)	20
保育内容研究Ⅴ(表現③)	21
保育内容研究Ⅵ(表現④)	22
保育内容研究Ⅶ(総合活動)	23
統合保育論	24
精神薄弱治療論	26
運動療育論	27
言語療法論	28
自閉症治療論	29
情緒障害治療論	30
専攻科実習	31
社会福祉制度政策論	32
障害福祉論	33
家族福祉論	34
社会福祉調査法	35
社会福祉援助方法論	36
社会福祉特別演習	37
社会福祉実習	38
修了研究演習	39

専攻科福祉専攻

人間論	43
老人福祉論	44
リハビリテーション論	45
老人・障害者の心理	46
家政学概論・実習	47
介護概論	51
介護技術	52
障害形態別介護技術(老人)	53
障害形態別介護技術(聴覚障害)	54
障害形態別介護技術	55

(肢体不自由・内部障害)	
障害形態別介護技術(視覚障害)	56
実習指導	57
介護実習	58
介護福祉特講(レクリエーションワーク)	59
介護福祉特講(老年医学)	60
社会福祉制度政策論	61
障害福祉論	62
家族福祉論	63
社会福祉調査法	64
社会福祉援助方法論	65
社会福祉特別演習	66
社会福祉実習	67
修了研究演習	68

保育專攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 前期	
【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって生き方の基礎となる人間観を築く手掛かりとなるように、人間存在の独自性とその特性を説き、教育と福祉のはたらきとその関係を考える。	
【テキスト・参考書】 神谷美恵子、マザー・テレサ、エリッヒ・フロイ、灰谷健次郎、星野富弘らの多くの著作から学ぶ。	
授 業 計 画	
<p>次のような問題を取り上げ、全体を通して資料講読と講義そして話し合いによって授業をすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間論のいろいろ 2. 人間の尊厳と権利 3. 人間らしさ 4. 愛と自由 5. 生きがいと自己表現 6. それぞれの生き方と幸福 7. 人間の生と死 8. 教育と福祉 9. 現代の人間とヒューマニズムの課題 	
【評価方法】 レポート 授業への参加とレポート	

【授業科目名】 現代保育論	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>今日の保育の現状と課題についての学習を深めながら、各自の実践的力量的向上を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで適宜提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>今年度は、「今日の子どもの育ちと保育実践」をテーマに、次の3つの柱に基づいて授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践記録について <ul style="list-style-type: none"> ・実践記録とは何か ・実践記録の書く意味－実践記録と保育実践 ・実践記録の書き方 2. 今日の子どもの育ちの問題と保育実践 <ul style="list-style-type: none"> －保育実践記録の検討を通して学ぶ－ 3. 各自の実習記録の報告と検討 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の記録の検討を通して、各自の実践的な課題を明らかにする ・記録の検討のなかから浮かびあがってきた共通の問題について学び、さらに理解を深める 	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育計画論	【担当者】 米山 千恵
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもひとりひとりの成長・発達の特徴をふまえ、集団保育の場での日々の生活やあそびを中心に、人間として生きる喜びを育む保育計画について考える。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>保育園における保育計画・指導計画を「保育所保育指針」に基づき学ぶと共に、実際にはどのように計画を立て保育を進めていくかを、幼稚園では幼児の計画をとりあげることになるので保育園の場合は3歳未満児の乳児を中心に考える。ひとりひとりの子どもを大切にする保育を進めるための保育のありよう、計画を具体的な計画の事例、スライド等を使って授業を進めたい。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育計画論

【担当者】 渡辺明

【開講期】 前期

【授業目標】

子ども一人一人の発達特性をふまえ、子どもたちの生活、遊びを通し、人間として生きる力、喜びを育くむ保育計画について考える

【テキスト・参考書】

参考書 子どもが"つくる"仲間とともに育つ幼稚園
プレイバル館 渡辺 明 著

授 業 計 画

幼稚園教育要領が重視している内容には「幼児の主体的な生活を中心に展開されるものであること」「環境による教育であること」「一人一人の発達特性をふまえ、個人差に応じたものであること」「遊びを通じた総合的指導(援助)により行なわれるものであること」と視点を明確に示している。そして教師は子どもとの信頼関係をつくり、子どもと共に保育をつくることも忘れてはならないと提言している。

こうした大切な内容を思う時、人間として育つ子どもの保育計画はどうか、あつたらよいか、考えよう。

(1) 子どもの立場にたち、同じ地平で考えよう。

(2) 計画を立てるためには子どもとの信頼関係をどうつくるかも大切、その点も考えよう。主体的生活をどうつくるか、その点も考えよう。

(3) 子どもにとつて小さい生活(遊び)をどうつくるかも考えよう。

(4) 子どもたちの遊ぶ姿、事例を基に考えてみよう。

【評価方法】 レポート

【授業科目名】 保育環境論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後期	
【授業目標】 子ども、保育をとりまくもの=環境が、子どもの生活・育ちにどうかかわるかを考える。	
【テキスト・参考書】 民秋 言・相馬和子共編『子どもと年中行事』相川書房	
授 業 計 画	
<p>保育環境はいろいろな角度から捉えられるが、本講では「子どもと年中行事」をテーマとする。</p> <p>1. 生活における年中行事の意味</p> <p>2. 保育における年中行事の意味</p> <p>の2つをまず考えることからはじめその後、各年中行事を保育にとり組むときの留意点などを検討する。</p> <p>また、保育カリキュラムに年中行事をプログラムとして編成する演習も行う。</p>	
【評価方法】 レポート提出	

【授業科目名】 保育人間関係論	【担当者】 村田保太郎
【開講期】	後期
【授業目標】	<p>人間は現在を人間どうしの相互関係の中で生きている。子どもは親との関係によってその成長、発達に大きな影響を受けながら人格を形成していく。同時に保育者等のかかわり方によっても大きな影響を受ける。現実には起きている様々な実態や事例を通して、よりよく生きることについて洞察を深めていく。</p>
【テキスト・参考書】	<p>テキストは使用しない。</p> <p>授業の中で、参考文献などを紹介する</p>
授 業 計 画	
<p>主として、人間関係の在り方について問題を提示するようなVTRを見て、自分の考えを述べたり、記述したり、討論することによって、自分の生き方、保育観、障害児観、人間観などについて考究する。</p> <p>親の生き方、子どもへの期待と子どもの実態とは必ずしも一致するとは限らない、早期教育・受験教育などはその代表例である。</p> <p>また、障害児を持った親にも現代社会の中では矛盾も多く、悩みを伴うこともある。</p> <p>指導したり、叱ったりしながら自分の保育観に従って保育する人もいれば、受容したり援助したりすることを保育観としてかかわっている人もいる。</p> <p>苦勞を避けて楽に自由に生きることを求める者もいれば、自らを厳しく律し苦しくともそれを乗り越えて生きることを求める者もいる。</p> <p>人間の様々な実態を通して、人間が関係の中で生き合っていくことについて考えていきたい。</p> <p>VTR、OHPなどを使用し具体的な事実を通して学習を進める。</p>	
【評価方法】	<ol style="list-style-type: none"> 1、授業の中での討論を通して評価する。 2、課題に対するレポートを通して評価する。

【授業科目名】 保育研究法	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期	
【授業目標】 よりよい保育実践を創造するためには、保育者自らが、保育の理論的学習や実践研究を行いながら研鑽を積むことが求められる。日々の実践を創造し実践し適切に評価しさらに実践の向上をめざす、そのような保育者としての育ちを目標に、保育実践の研究について考えていく。	
【テキスト・参考書】 授業のなかで、適宜指示する。	
授 業 計 画	
<p>本演習では、保育実践とはなにか、保育実践を研究するとはなにかについて、専攻科実習（前期）と有機的に関連させながら学習を進める。</p> <p>本科において修得した保育者としての基礎をさらに向上させるものであり、学生1人ひとりが実践者として、子どもと適切に向き合い、豊かな実践を創造し、より客観的な実践評価を行えるような育ちをめざすものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践の研究とは （保育実践をめぐる文献的検討と報告） <ul style="list-style-type: none"> ・保育目標、実践研究、実践記録 他 2. 保育実践における子どもの理解 （園における行動観察と報告） <ul style="list-style-type: none"> ・子ども1人ひとりの発達理解 ・子ども間関係、仲間関係、集団の理解 他 3. 保育実践における子どもの生活の理解保育計画 （実習園における事前研究と報告） <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム、保育計画 ・日案と子どもの遊び 他 4. 専攻科実習における実践研究テーマの検討 （学生自身の実習テーマの検討と報告） 5. 専攻科実習（前期 2週間の集中実習） 6. 保育実践の研究に関するまとめ （実習成果の検討と報告） 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 演習への参加態度、レポート準備の状況と報告内容 ② 専攻科実習への参加態度と学習成果 	

【授業科目名】 あそび分析法	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園に通う子どもたちの、幼稚園での自主的に取り組む活動における、その内容の構造についてについて検討する目を養成することを目的とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>随時提示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1～5を考えたうえで、具体的な活動を読む、ことから分析へと繋げていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの活動を“読む”ということ。 2. 活動の範囲、のとらえかた。 3. 総合的な営みとしての活動と、連続ということ。部分と全体、切れめと節目。 4. 表現系としての、活動。具体と抽象。虚と実。 5. 創造された“活動”生活と遊び。その構造を探る。心像を探る。 <p style="text-align: right;">平常点、課題、レポートで行う。</p> <p>実際編として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園での活動の観察を記録とする。VTRから、またはその場での、観察の後で、記録として採録する。 2. 採録された記録をもとに、1)自分で検討する、2)相互に検討する。 3. 記録が使えるものなのかどうかということの検討。 4. 採録上の留意事項。 5. VTRから再度の記録。 6. 5をもとに、その構造をさぐる。 7. 構造の特徴についてまとめたうえで、幼児における、活動の意味を探る 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点、ミニ課題、レポートによって行う。</p>	

【授業科目名】	集団保育論	【担当者】	民秋 言
【開講期】	前期		
【授業目標】	<p>保育は子ども一人ひとりの育ちをはかるものであるが、そのとき、集団のなかで生活してこそ意味がある、という面を学ぶ。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>授業中に適宜指示する。</p>		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団とは何か — われわれ人間にとって集団がもつ意味を考える。 2. 保育における「集団」 — 保育生活で、子どもたちはどうして集団生活を送るのか。保育者はどうして「集団づくり」を課題とするかを考える。 3. 子どもの育ちを考える「集団づくり」 — 子どもが一人ひとり健やかに育つための集団づくりのポイントと留意点について学ぶ。 4. 集団づくり、集団活動のカリキュラム — 集団づくり、集団活動を保育カリキュラムに編成する（受講生各自のカリキュラム作成の演習）。 			
【評価方法】	レポート提出		

【授業科目名】 小児医学	【担当者】 山登淳伍
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本は今や、世界でも有数の少子、高齢化社会になった。小児が心身ともに健全に育つ事が私の切なる願いである。このような状況下で正しい子育ての方法、小児の成長、発達に対する正しい評価などに重点をおいて授業を進めたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>今村 栄一ほか 「小児保健」 診断と治療社</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健の概念 2. 小児の成長と発達 3. 育児と生活指導 4. 小児の栄養 5. 健康と異常、先天性の病気、予防接種 6. 小児の事故、特に事故の予防 7. 新生児 8. 思春期にみられる心の病気（小児科医の立場から） 9. 小児期に多い病気 10. 保健行政 <p>およそ上記の順で授業を進める予定であるが、授業に活力を与えるため授業の始めに数分間、ワンポイント・クエスチョンを行い理解度を確かめる。ただし、結果は成績に関係しない。また、時間的に余裕があれば、あるテーマをとりあげ（たとえば少子化の問題）フリー ディスカッションなども試みたい。なお、この講義に対する批判、評価についてはご遠慮なく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>(1)期末試験は筆記試験 (2)問1.～問5. 五者択一（各10点） (3)問6. 設問に対する小論文（50点）</p>	

【授業科目名】 生活習慣習得論

【担当者】 伊志嶺美津子

【開講期】 前期

【授業目標】

生活習慣を、子どもが単に機能や技能として習得していくものではなく、子ども
の人格や発達全体にかかわるものとして捉え、実際の子どもの観察をどうし
て考え、理解を深めていく事を目標とする。

【テキスト・参考書】

近藤 弘 伊志嶺美津子他 『保育学要説』 建帛社
檀田紋子 清水 玲子他 『乳児の保育臨床学』 東京教科書出版 ほか

授 業 計 画

以下に沿って講を進める。VTRや観察結果なども交えて。子どもの実際の姿・
変化を捉えながら、生活習慣習得のみちすじを理解し、保育上の配慮、最近の
子どもの生活にみられる問題についても考えていきたい。

以下の進行は、観察の進行などにより、入れ替わる可能性がある。

- 1 生活習慣とは何か、生活習慣の発達の意義
- 2 子どもの生活と生活習慣、子どもの観察計画
- 3 睡眠習慣とその発達、保育上の配慮
- 4 食事習慣とその発達、保育上の配慮
- 5 排泄習慣とその発達、保育上の配慮
- 6 子どもの観察記録、中間報告・検討
- 7 清潔習慣とその発達
- 8 着脱活の習慣とその発達
- 9 観察結果報告・考察
- 10 まとめ

【評価方法】

平常点、子どもの観察記録を含めたレポートによる

【授業科目名】 乳児保育論Ⅰ(母子関係)	【担当者】 今泉岳雄
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者が子どもと接する時に、背景にその子の母子関係を考えることは当然である。また、母親を支え子どもとも関係を持つ父親のことも無視できない。子どもを取り囲む母性的な環境も視野にいれるべきであろう。さらに、保育者自身の持つ母性的なものを内省することも子ども達を育むうえで重要である。多角的に母子関係を考えていく授業をしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>マーシャルH.クラウス「母と子のきずな」(医学書院)、小島謙四郎「乳児期の母子関係」(医学書院)、今泉岳雄「お母さんひとりで悩まないで」(講談社)他</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) オリエンテーション、自己紹介(この授業で何を学びたいか?)</p> <p>(2) 母子を取り囲む現代の育児環境</p> <p>(3) 母子関係の成立過程(感受期、エンタレイメント、アタッチメント)</p> <p>(4) 母性とは(妊娠から出産に至る育児行動や初期の母子分離から考える)</p> <p>(5) 母性的行動を阻む要因</p> <p>(6) 乳幼児の発達と親子関係</p> <p>(7) 危機的な状況で乳幼児の示すサインや問題行動</p> <p>(8) 探索行動、アタッチメント行動、スージング行動、新奇場面の4因子から子どもの行動を理解する</p> <p>(9) 子どもにとって父親存在の意味</p> <p>(10) 思春期、成人の問題から振り返った親子関係</p> <p>(11) 精神分析、交流分析の理論から幼児期体験を理解する</p> <p>(12) エゴグラムから自分について語り合う</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、平常点</p>	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅱ（探索活動）	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>探索活動が活発になる乳児期後期の子どもの発達を、人との関係、物との関係から考察し、この時期の子どものとらえ方と保育への理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>およそ以下の項目を取り上げる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児後期の子どもの発達の特徴 2. 子どもの探索活動と保育 <ol style="list-style-type: none"> (1)探索活動のおもしろさ (2)探索活動の発展のプロセス (3)探索活動を通して育つもの (4)探索活動を発展させる大人の役割 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">レポート</p>	

【授業科目名】 乳児保育論Ⅲ(信号・言葉)

【担当者】 佐々加代子

【開講期】 前期

【授業目標】

乳幼児とのかかわりにおいて発達助成者として位置づく保育者に、両者のかかわりにおいて、目指される、活動の展開または阻害について要因を探ること、みる目の養成、技法の検討と、その習熟に置く。

【テキスト・参考書】

発達助成論(私製)、その他随時提供する。

授 業 計 画

演習をふまえて論を展開する。

1. 乳幼児の発達過程における、信号行動系、states
2. 母子関係に代表される、人間関係にみられる、信号行動系が、相互関係において、はたす。機能。
3. 関係把握において鍵となる、距離-信号行動系と要素。。
4. 相互関係のしくみ;コミュニケーションとそのプロセス。
5. 意識化してとらえること。相手と私、私の信号行動系、相手の信号行動系。。
6. とらえる私の視知覚能力、範囲。聴知覚能力、触知覚能力。(演習)
7. 観察力の自己点検・評価。他者に学ぶ、観察の視点。
8. 相互関係における、距離-信号行動系(演習)
9. 一人から数名、集団の関係の把握。(演習)
10. 日常生活、保育所、幼稚園などの保育現場でのさまざまな場面のコミュニケーション過程とその展開のさまについての検討。問題点についての見方。
11. 発達助成者に求められる内容-かかわりかたの技法。。
12. さまざまな子ども(たち)とのかかわりにおいて求められる内容。
13. 受講生自身のかかわりかたの傾向の分析(特質と問題点)
14. 瞬時の関係把握に求められる資質。問題解決への援助。

対象乳幼児は障害児もふくめて検討する。

【評価方法】

出席点、平常点、ミニ課題、レポートによって行う。

【授業科目名】 幼児の保育構造論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育の在るべき姿を保育の構造という視点で追求する。 自分なりに考えて、保育の在り方を主体的に探究することを授業の目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と保育学。 2. 保育の現状。 3. 幼児期の人生における位置。 4. 子ども存在について。（子どもをどういう存在としてみるか） 5. 保育とは何か。 6. 保育構造とは何か。（構造とは何か） 7. 保育構造の探究。①（保育構造論の分析） 8. 保育構造の探究。②（保育構造論の分析） 9. 保育構造の探究。③（保育構造論の分析） 10. 保育構造論と保育者。 11. まとめ。 	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育内容研究 I (自然認識)

【担当者】 近藤正樹

【開講期】 後期

【授業目標】 幼児教育法の各論としての「認識」学を想定した上で、哲学・生理学・心理学・教育学を通じた学際教科と位置づけ、私流に表現すれば『inputの教育法の概説と自然事象の認識の育成』を主要内容とする。本科の『環境 I (自然認識)』が具体的体験を中心に講じてあるのに対して、抽象度を高めるとともに境界領域として見通しがもてるよう配慮している。

【テキスト・参考書】

テキスト：中沢知子著『新版 幼児の科学教育』 国土社刊
参考書：梅棹忠夫著『知的生産の技術』 岩波新書、 岩波書店刊
時実利彦著『目で見る脳』

授 業 計 画

幼児教育法各論をどう考えるか

1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (inputの教育)
2. 自分自身の知的財産を豊かに効果的に表現できるようにする教育法 (outputの教育)
3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptationの教育)
4. 自然認識・社会認識・文化認識 という サブ・ジャンルの特質

「認識」とは何か

1. 教育学における Terminology (専門用語と生活用語)
2. 用語の正しい理解のしかた (外国語との比較のすすめ)

「認識」を理解するための生理学 ① 神経細胞

1. 環境のリセプター
2. 感覚器の構造と機能
3. 神経細胞の構造と機能

「認識」を理解するための生理学 ② 神経系と脳

4. 神経系と神経節・脳の関係
5. 脳の構造と機能の分化
6. 生理学的原因による認識不全の現象

「認識」を理解するための心理学

1. レンズ眼による倒立像を正立像とみなす適応
2. 残像と編集
3. 錯覚と先入観
4. イメージと記憶のファイリング
5. 夢とファルシと発想
6. 「認識」のモデルとコンピューター

「思考」を考えるモデル

1. 中沢知子著『幼児の科学教育』の分析
2. 中沢知子の「思考」プロセスのモデル
3. 「思考」モデルとコンピューターのアナロジー
4. コンピューター理論の現状と未来
5. 「認識」と「思考」の教育学的総括
6. 「知・情・意」の認識学的説明

【評価方法】

試験 (あらかじめ問題を公表しておく) を行う。

【授業科目名】 保育内容研究Ⅱ（社会認識）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育において子どもが「社会事象」を認識することの意味を考える。 さらに保育カリキュラムとして社会事象の認識を組み込む作業をする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>とくに使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが「社会事象」を「認識する」とはどういうことか。 2. 保育所保育指針における社会事象の認識。 3. 幼稚園教育要領における社会事象の認識。 4. 保育において子どもが認識すべき社会事象とは何か。 5. カリキュラムに社会事象の認識をどう組み込むか。 6. 受講生がそれぞれ社会事象の認識のカリキュラムを組み立てる。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートにより採点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ（表現②）	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの造形表現活動の援助指導について、演習を中心に具体的に学ぶ。 豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助指導のあり方について考察する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて 2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について 3. 以上の視点について、実際の保育現場での実践例などを検討素材にして援助指導のあり方について分析考察していく (保育現場からのVTR、作品などの具体的な実践資料を活用していく) 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅴ(表現③)

【担当者】 小林美実

【開講期】 前期

【授業目標】 子どもは、生得的に音楽的なものに対する嗜好を表し、感情等を音楽的に表現する。そうした生得的な表現活動を、音楽としての要素、構造をもった自己表現へと成長し発達する様子、それを保育者として援助するために必要な知識、方法等を学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキスト (子どもの歌曲集)

続こどもの歌200 チャイルド社

授 業 計 画

1. 子どもと音楽的表現
人間の生活と音楽のかかわり、音楽の誕生、音楽とコミュニケーション、など。
2. 子どもの成長と音楽的発達の姿
子どもの成長の記録 (VIDEO) から、その特徴をつかむ。
3. 音楽的発達を援助するための活動や方法、知識や教材
特に「あそびうた」を中心に、その実際を学ぶ。

【評価方法】

【授業科目名】 保育内容研究Ⅵ(表現④)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 前期	
【授業目標】 乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点 ②保育現場でみられる身体表現 ③身体表現の教育的意義 ④指導の実践例 <p>(2) 身体表現力の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児の発達にみられる身体表現 ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達(3歳児、4歳児、5歳児) <p>(3) 身体表現の指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ <p>(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ①指導実践例における言葉がけの分析と整理 ②言葉がけのありかた 	
<p>【評価方法】</p> <p>講義の一部、対話形式や演習形式で進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。</p>	

【授業科目】 保育内容研究 VII (総合活動)	【担当者】 八木 絃一郎
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>クラスや園全体で行なわれる組織的な遊びや行事(ごっこ遊び・劇・運動会など)を取り上げ、それらの総合活動の目的、意義を、単一の系統別活動と比較しながら考察する。これらの総合活動の指導に関する知識、技能の実践研究の遅れが保育を低迷させている現状課題と、そのために必要な問題解決策、具体的な実践的方策の理解を目的にする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>VTR「今、学校では一泊子を飼うー」NHK 野田 弘「総合学習の構想と実践」明治図書</p>	
授 業 計 画	
<p>保育内容を具体的に展開する方法には、しほり込んだ「ねらい」に沿った活動や系統的学習活動(体育・音楽・造形・文学などの領域的活動)と、それらの「ねらい」を複数、組み合わせて「総合化」させて展開する活動(これを総合活動と言う)がある。これらの「総合活動」の意義、内容、方法、カリキュラムの立て方などについて学修する。</p> <p>(1) 保育、教育における総合活動(総合学習)の歴史から学ぶ 幼稚園・小学校で実践されたいくつかの事例(コア・カリキュラム)を通して、その内容、意図を学ぶ。(戦後間もない頃の実践から、小学校の生活科、総合科までを通して)</p> <p>(2) 「総合活動」にする必然性 何と何を総合するのか、総合しなければ育成されない事柄とは何か。</p> <p>(3) 具体的な指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お店やごっこ ・ 造形活動を軸にした組織活動「どうぶつづくに」「町とのりもの」 ・ 劇活動 	
【評価方法】	

【授業科目名】 統合保育論	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人が生きるということの原点を考究し、人間らしく生きることについて探求する。その上にとって健常児と障害児がともに生活する意義と統合保育の課題を考察する。また子ども理解及び援助の在り方を実践的・具体的に追求する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>障害児保育への道 村田保太郎著 全国社会福祉協議会発行 参考書 授業の中で適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>人の誕生について、結婚・妊娠・出産までの過程で、人間として生まれること、人間として生きることを考える。</p> <p>その中で、差別の構造を理解し自覚なしに、自分が差別する側に立っていることもあり得るという認識を持つことから学習する。</p> <p>また、障害児、障害者が古代から現代に至るまでどのように受けとめられ、処遇されてきたかの歴史を概括し、障害を持つこととはどういうことかについて考える。</p> <p>統合保育の意義について考察し、幼稚園・保育所において障害児を受け入れる意味を確認する。その中で、保育観の検討、現状における行政の対応と課題、発達援助の在り方、保育の進め方などについて具体的なテーマに基づいて考察・学習を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害児の受け入れとその体制 ○ 障害種別の理解と保育 ○ 障害児の発達援助 ○ 障害児の行動と生活の援助・指導 ○ 障害児の保護者の理解と援助 ○ 専門機関との提携 ○ 地域との提携 <p>以上については、VTR・OHPの使用などで理解しやすくし、討論形式もとり入れながら実践的な学習方法をとる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1、平常授業の中での討論の状況 2、小レポートを随時提出させる。</p>	

【授業科目名】 統合保育論

【担当者】 高橋まゆみ

【開講期】 後期

【授業目標】

保育所や幼稚園におけるさまざまな発達ニーズをもつ子どもたちの理解と問題の所在について知り、保育者としての援助のあり方や保育実践を考える。

【テキスト・参考書】

講義のなかで適宜、指示する。

授 業 計 画

保育所や幼稚園には、障害をもつ子どもたちのほかにもさまざまな発達ニーズをもつ子どもたちがいる。本講義では、統合保育における障害児への発達援助を中心にしながらも、現代社会が抱える子どもの発達の問題とその援助や、いわゆる”気になる”子どもたちの理解と保育実践についても論を進める。

1. 保育所・幼稚園における「発達ニーズを持つ子ども」の理解と保育実践
 - ① ある保育園における「発達ニーズをもつ子ども」たち
 - ② 発達の遅れにニーズを持つ子どもたち
 - ・多動症候群、学習障害とよばれる子どもたち
 - ③ 家庭・環境の問題にニーズを持つ子どもたち
 - ・家庭問題を抱える子どもたち、
 - ④ 子どもらしさの問題にニーズを持つ子どもたち
 - ・いわゆる”気になる子”とは
2. 保育所・幼稚園における障害児保育の実践と子どもの発達
 - ① 子どもの理解と援助 1－障害児の発達評価と実践
 - ② 子どもの理解と援助 2－障害児への集団における援助と個別的援助
 - ③ 子どもの理解と援助 3－幼児の仲間関係、他者理解と保育者の援助
3. 保育所・幼稚園における「いっしょの保育」を考える
 - ① 「ともに育つ」ということ－インクルージョンから考える
 - ② 「地域で育つ」ということ－地域における子育て支援から考える
 - ③ 「その子らしく育つ」ということ－生涯発達の視点から考える

【評価方法】

平常授業のなかで、レポート報告および討議を行う。

【授業科目名】 精神薄弱治療論	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> ① 精神発達遅滞児に関する理解と発達の知見について理解する。 ② 障害児保育に関する保育実践・指導法の実践を理解する。 ③ 生涯発達の視点から、今後の障害児保育に求められる課題を明らかにする。 	
【テキスト・参考書】 講義の中で適宜、指定する。	
授 業 計 画	
<p>精神発達遅滞児に関する基本的知見の解説を行いながら、さらに、「特別な発達ニーズを持つ子どもたち」という理解からどのような発達援助が望まれるのか、および、現代社会に生きる障害を持った子どもたちや人々への支援のあり方についても触れる。単なる治療論の理解にとどまらず、障害児・者の社会参加を念頭において、我々が今日求められている発達支援のあり方についても理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 特別な発達ニーズの理解 <ul style="list-style-type: none"> ① 特別な発達ニーズとその援助 ② 発達メカニズムの理解 ③ 特別な発達ニーズの医療と保健 <ul style="list-style-type: none"> ・原因と診断、治療 2. 保育所・幼稚園での援助－統合保育 <ul style="list-style-type: none"> ① 精神発達遅滞児の理解と保育実践 3. 障害児施設での援助－施設保育・療育 <ul style="list-style-type: none"> ① 療育とは ② 子どもの生活と専門的指導 ③ 精神薄弱児施設における発達援助と実際 ④ 肢体不自由児施設における発達援助と実際 ⑤ 重症心身障害児施設における発達援助と実際 4. 障害児保育をめぐる最近の課題 <ul style="list-style-type: none"> ① 障害児の療育再考－生活と発達 ② 子どもの権利保障とアドボカシー ③ 生涯発達の視点からみた発達保障とは ④ 地域で生きる子どもと家族への支援を考える 	
【評価方法】 平常授業のなかでレポート報告や実践検討を行う。	

【授業科目名】 運動療育論	【担当者】 南雲直二
【開講期】 後期	
肢体不自由をもつこどもの運動発達の道筋とその援助の方法，および家族への支援の理論と実際を理解する	
【テキスト・参考書】 そのつど提示する	
授業計画	
<p>1. 「障害」の正しい理解</p> <p>近年，障害の概念がWHOにより整理され，その理解は障害者に携わるものにとって必須のものである．この3階層モデル（イムペアメントimpairments, ディサビリティdisabilities, ハンディキャップhandicaps）を理解する．</p> <p>2. 運動療育の実際</p> <p>1) 障害児への支援</p> <p>ア. 肢体不自由をもつこども（脳性麻痺，骨形成不全，ダウン症候群，等々）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の仕組み ・運動障害の仕組み <p>イ. 発達の理解と支援：運動発達の評価，予後評価，および適正な運動活動形成への支援．</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動発達評価法 ・予後に関する研究 ・各種運動療法の理論と実際 <p>ウ. 運動能力の開発：disabilitiesの克服</p> <ul style="list-style-type: none"> ・impairmentsへの挑戦（新しい医療） ・機能代替によるdisabilitiesの軽減・改善 ・装具・補装具によるdisabilitiesの軽減・改善（医療工学） <p>2) 家族（母親）への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談および育児負担の軽減（対策） ・健康支援（母親）：精神衛生と心理支援 	
【評価方法】 試験	

【授業科目名】 言語療法論

【担当者】 高平嘉明

【開講期】 後期

【授業目標】 人と人とのコミュニケーションが、人間の発達や生きざまに与える影響について考えながら、その中心の言語の働きを知り、そのことに障害を持つ子供達の診断や治療等を体験的に学習したい。

【テキスト・参考書】

「言語習得と人間関係」 佐々 加代子著 犀書房発行

授 業 計 画

1. コミュニケーションについて考える
 - VTRによる行動観察
 - 「しぐさ、表情、ことば」
 - 「関係」「流れ（変化）」
 - ことば のもつ力について
 - 言葉遊び
 - イメージへの変換
 - 自律訓練（自己催眠）
 - カウンセリングとは
2. コミュニケーションに障害を持つ子供達について
 - 人間の発達とことばの発達
 - ことばの遅れについて
 - 発音について
 - 吃音（どもり）について
 - その他のコミュニケーション障害について
3. 「かかわり方」を考える

【評価方法】

平常の学習の中での意見や話し合いや表現

【授業科目名】 自閉症治療論	【担当者】 伊藤英夫
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>自閉症とは何か、自閉症児とはどんな子どもたちかを理解し、どんな治療教育が有効かを学ぶとともに、将来、自閉症児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「自閉症の診断と基礎的問題」野村東助・伊藤英夫・伊藤良子 編 自閉症の診断と指導 第1巻 学苑社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現在、自閉症児は脳を基本とする中枢神経系の障害に基づく、発達障害と考えられているが、詳しい原因はまだ確定されていない。したがって、自閉症の治療教育の方法もさまざまである。授業では、自閉症の正しい理解のもとに、最新の治療教育の方法について、ビデオを使いながら紹介する。</p> <p>①オリエンテーション： ②「自閉症」とは？ 自閉症の診断基準 ③早期スクリーニングシステム ④早期療育システム ⑤障害児通園施設での治療教育と幼稚園での統合保育 ⑥自閉症児の母子関係 ⑦自閉症児のコミュニケーション指導 ⑧言葉のない自閉症児の言語指導プログラム ⑨アメリカの自閉症児・者の療育プログラム ⑩自分が自閉症児の担任になったら．．．（１） ⑪自分が自閉症児の担任になったら．．．（２）</p>	
<p>【評価方法】 レポート</p>	

【授業科目名】 情緒障害治療論	【担当者】 伊藤英夫
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>情緒障害とは何か、情緒障害児とはどんな子どもたちかを理解し、将来、情緒障害児の担任になったときに、どんな保育をすればよいかについて</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>岡堂哲雄（編）『臨床心理学』（日本文化科学社）</p>	
授 業 計 画	
<p>一口に情緒障害といっても、原因、種類、症状、治療的アプローチもさまざまなものがある。授業では、情緒障害全般について概観し、特に幼児期におこりやすいものに焦点を当て、治療のプロセスについて具体的な事例を紹介しながら検討する。また、カウンセリングの方法やあり方についても触れる予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②「情緒障害」とは？ ③乳児期の情緒障害 ④幼児期前期の情緒障害 ⑤幼児期後期の情緒障害 ⑥学童期の情緒障害 いじめ ⑦学童期の情緒障害 不登校 ⑧心理アセスメントの技法 ⑨心理カウンセリングの技法 ⑩自分が情緒障害児の担任になったとしたら．．．（１） ⑪自分が情緒障害児の担任になったとしたら．．．（２） 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 専攻科実習	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 より豊かな保育実践とはなにか、講義や演習で学んだ知識と技術を有機的に関連させ、理論と実践の統合をはかり、実践性を身につけることを目標とする。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>実習は前期実習と後期実習を行う。</p> <p>前期実習は2週間の集中実習、後期実習は毎週1日（木曜日）の継続実習である。</p> <p>実習園は、専攻するコース（乳児・幼児・障害児）によって、原則としてそれぞれ、乳児保育実施の保育所あるいは機関、幼児保育実施の保育所・幼稚園あるいは機関、障害児保育実施の保育所・幼稚園・通園施設あるいは関連機関のなかから選ぶ。</p> <p>前期実習は主に、園における子どもの生活構造、カリキュラム構造、子どものあそび、仲間関係の成立、実践記録のあり方など、保育者としての実践力と分析力を養う。関連講義として「保育研究法」が設定されている。</p> <p>後期実習は主に、前期実習をさらに進めて実践評価や事例研究を行い、よりよい実践の探求をめざす。関連講義として「現代保育論」が設定されている。</p> <p>専攻科実習は本科の実習と異なり、より豊かな保育実践とはなにか、あるいはそれを作り出すためにどのような視点と準備が必要であるかについて追求する。このため、各自の重点テーマについては学生自身が設定する。それぞれの実習成果をあげるために、学生自身の主体性が求められることを念頭において履修すること。</p> <p>課題； 実習テーマに即した観察・分析を実習記録にまとめ、提出する。</p> <p>実習の分析・まとめを関連講義のなかでレポート提出し、実践・事例報告を行う。</p>	
【評価方法】 評価は、実習中の実習態度と学習成果、およびそれぞれの関連講義への参加姿勢と学習成果によって行う。	

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期および後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講は、社会福祉主事任用資格を取得する学生にとっては必修科目ですが、取得しない学生には選択科目として位置付けられています。しかし、主事任用資格取得の有無に関わらず、できるだけ多くの学生に履修をお勧めします。</p> <p>前期は、保育、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史の変遷と現在、そしてこれからどう変化していこうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。</p> <p>そして、制度政策を考える視点を、生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等とおして自らを築き上げられるようにします。</p> <p>後期は、社会福祉制度が、具体的にどうなっているかを理解できるようにし、年間を通して、保育・介護現場に立つ者としての最低限の認識を身につけることを目標にします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>前期はプリントやビデオを中心に、後期は「日本の福祉はどこに行くのか」を使用します。その他は授業時に提示します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>前期は、育児、保育、介護などを巡る実態をもとに、授業目標に掲げた内容にそって、プリントやビデオを題材に、短時間でもなるべくグループ・ディスカッションを取り入れ授業を進めます。</p> <p>また、夏期休暇中の公立保育所採用試験やその後の保育所、老人福祉施設などの就職試験受験対策を兼ねながら、小論文（作文）作成の方法や内容についても検証します。</p> <p>また、後期は、テキストを中心に、前期同様グループ・ディスカッションを取り入れる努力をしながら進めます。</p> <p>内容的には、高度な内容の授業ですが、ひとつひとつ丁寧に進めていくつもりです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験は、レポートとします。出席状況は重視します。日常の授業への取り組み姿勢など、その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島豊
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上で必要な基本的な考え方と知識を学ぶ。またノーマリゼーションの理解などを通して障害者問題に対する問題意識を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：大野智也『障害者は、今』岩波新書 参考書：手塚・加藤編『障害者福祉論』ミネルヴァ書房</p>	
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関わる制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉制度、また教育や雇用などの関連する制度の概要を理解することが中心となる。後半は、学生各自の報告やグループディスカッションなどを取り入れながらテキストを読み、現状の障害者の生活問題に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>序. オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念について 2. 障害者福祉の法律と制度、関連制度 3. 『障害者は、いま』の講読とディスカッション 	
<p>【評価方法】</p> <p>①学期末レポート提出 ②講義への出席・参加状況</p>	

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 後期	
【授業目標】 ①家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ ②各分野の家族福祉の具体的課題を深める ③わが国における家族福祉の動向について学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：授業のなかで紹介する	
授 業 計 画	
(1)いま世界と日本の家族に何が起きているのか (2)「女らしさ」「男らしさ」からの解放 (3)家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念 (4)高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容 (5)障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討 (6)精神障害者問題からみた家族福祉 (7)ディベート福祉制度改革はどうすすめられるべきか (8)ディベート介護の担い手は女性が適しているか否か (9)地域問題からみた家族福祉 (10)援助方法からみた家族福祉 ⑫現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望	
【評価方法】 出席状況とレポート提出	

【授業科目名】 社会福祉調査法	【担当者】 森山 治
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉調査に関する基礎的な知識を身につける。 2. 調査結果の分析や検証に必要な最低限の統計知識を身につける。 3. 調査や統計が身近なものとなるように受講者の理解をすすめる。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 「図説東京の福祉実態」 95年版 萌文社（秋に97年度版発行予定）</p> <p>参考書 「地域認識と地域調査」 田口正巳著 埼玉県コミュニケーションセンター 「統計でウソをつく法」 ダレル・ハフ著 講談社ブルーバックス</p>	
授 業 計 画	
<p>社会福祉調査法は、介護福祉士養成のカリキュラムとしては、社会福祉援助技術の一つ（間接援助技術）と定められています。しかし、社会福祉の仕事にたずさわる者が、必ずしも調査を専門の仕事とするわけではありません。むしろ、調査対象者となる機会が多いのが実状です。</p> <p>そこで、授業の目的としては、高度な調査技術論に視点をおくのではなく、調査や統計が身近な存在として理解できるようになることを目的とします。</p> <p>授業の進め方としては、前半は調査法や統計の基本的な知識を身につけることに視点をおき（ノート筆記中心）、後半は、実際に行われた調査や保健・医療・福祉分野の行財政比較（テキスト使用）など、具体的なものをおして学習していく予定です。</p> <p>参考文献の「地域認識と地域調査」は、比較的分かりやすく書かれた調査法のテキストです。「統計でウソをつく法」（副題：数式を使わない統計学入門）は、統計や調査に親しむのに最適な読み物です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験期間中に試験を行います。</p>	

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】 尾島豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャル・ワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係を形成し、援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書：モフェット著『ケースワーク入門』川島書店 バイステック『ケースワークの原則』（新訳版）誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な、社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。社会福祉の現場で、どのように学校や書物で得た知識を活用するのか。対人援助という個別的な関係を通じて、社会的サービスを提供するとはどのような実践をいうのか。そして援助者の側も援助活動を通して自らも成長できるという意味で、福祉の仕事を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序. オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における方法・技術 2. 社会福祉の価値 3. 社会福祉の専門性 4. ケースワークの基礎 5. 事例研究 6. ソーシャル・ワーク論の歴史と理論 	
<p>【評価方法】</p> <p>①学期末レポート提出 ②講義への出席・参加状況</p>	

【授業科目名】 社会福祉特別演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 前期	
【授業目標】 地域福祉を基軸とした社会福祉の再編成がなされている現状と課題を理解し、そこでのソーシャルワークの方法について、具体的に学ぶことを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの主体とプロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)主体 (2)プロセス 2. コミュニティワークを中心とした援助技術の再構築 3. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの展開 <ol style="list-style-type: none"> (1)地域福祉相談活動 (2)小地域ネットワークづくり (3)当事者家族の組織化 (4)ボランティア活動への支援 (5)在宅福祉サービスの開発と組織化 (6)地域福祉活動計画の策定と実施 4. 事例研究 <p>(なお、本演習において実習の事前・事後指導を行う。)</p>	
【評価方法】 出席状況と主体的学習態度、学期末レポートにより評価する。	

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとします。</p> <p>実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学びます。</p>	
<p>【本実習及び事前・事後指導】</p> <p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施します。実習の事前・事後指導は、社会福祉特別演習の時間帯およびその他別途提起します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断し行います。</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試みる。	
【テキスト・参考書】 各担当教員の指示による	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月入学後、オリエンテーションをうけた後、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定（教員1人当たり5～10名の学生が配属） 3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 5. 2月修研提出する。 6. 2月修研発表会で研究成果を報告する。 	
【評価方法】 各自修研（論文）により評価する。	

福祉専攻

【授業科目名】 人間論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】 保育専攻・福祉専攻の学生にとって生き方の基礎となる人間観を築く手掛かりとなるように、人間存在の独自性とその特性を説き、教育と福祉のはたらきとその関係を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 神谷美恵子、マザー・テレサ、エリッヒ・フロイ、灰谷健次郎、星野富弘らの多くの著作から学ぶ。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次のような問題を取り上げ、全体を通して資料講読と講義そして話し合いによって授業をすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間論のいろいろ 2. 人間の尊厳と権利 3. 人間らしさ 4. 愛と自由 5. 生きがいと自己表現 6. それぞれの生き方と幸福 7. 人間の生と死 8. 教育と福祉 9. 現代の人間とヒューマンイズムの課題 	
<p>【評価方法】 レポート 授業への参加とレポート</p>	

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期	
<p>【授業目標】 全体授業目標としては、老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを追求します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学びます。 2. 老人福祉の理念・目的を学びます。 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。 4. 現行の老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考えます。 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>「ぼけてもいいとね」 (安田陸男著)</p> <p>「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)</p> <p>「寝たきり老人のいる国、いない国」 (ぶどう社・大熊由紀子著)</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p> <p>老人福祉を巡る様々な施策、ゴールドプラン、老人保健福祉計画、公的介護保険構想などについては、「社会福祉制度政策論」(選択科目)の授業に、なるべくゆだねたいと思っています。したがって、社会福祉主事任用資格取得の有無に関わらず、「社会福祉制度政策論」も併せ受講されるよう薦めます。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業を通して、適宜、感想文及びレポートを求めます。また、定期試験は、レポートとします。</p> <p>出席は重視します。授業回数が少ないことを考えると定時に始めたいと思います。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 リハビリテーション論

【担当者】 菊池恵美子

【開講期】 後期

【授業目標】 リハビリテーションの理念と基本原則、システム等を学び、併せてリハビリテーションの方法について習得する。方法については、一部、障害模擬体験を含めた実習を行い、介護におけるリハビリテーションの知識と技術をいかに活用するか理解を深める。又、バリアフリーデザインや福祉用具についても学ぶ。

【テキスト・参考書】

教科書：三訂 介護福祉士養成講座：リハビリテーション論：中央法規1997
その他講義の中で紹介する。

授 業 計 画

1	導入（リハビリテーションの定義、歴史、理念）	
2	わが国のリハビリテーションの体系と方法	★
3	リハビリテーションにおける評価（種類と方法）	
4	身体の仕組みと介助方法（背臥位から立位まで・実技）	★
5	主な疾患（片まひ・パーキンソン他）とリハビリテーション	
6	高齢者の体力測定（実技）	★
7	バリアフリー・デザイン（住宅改造）、福祉用具	★
8	まとめとテスト	

★ V T R 使用

【評価方法】

筆記試験 100%（出席は学則に従う）

【授業科目名】 老人・障害者の心理

【担当者】 長田由紀子

【開講期】 後期

【授業目標】

この授業では、高齢者の心理的特徴を理解することにより、偏見を取り除き、より客観的に高齢者を捉えられるようにする。そして、年をとれば誰にでも起こる変化と病気などが原因で起こる変化を区別し、現実には起こっている変化をどのように捉えたらよいか、どう対処したらよいかが考えられるようにする。

【テキスト・参考書】

長嶋紀一・佐藤清公(編) 老人心理学 建帛社

授 業 計 画

1 老化の概念

老人について学ぶにあたり、老化や老年期といった言葉の定義、使われ方、また老化はどうして起こるかなどについて知る。

2 感覚・知覚の加齢変化

視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能、および知覚機能が、加齢とともにどのように変化するのか、その結果起こってくる日常生活での問題、それに対する対応について考える。

3 記憶の加齢変化

記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下している高齢者への対応や、記憶の低下による失敗を少なくするためにはどうしたらよいかを考える。

4 学習能力の加齢変化

高齢者の学習を効果的に行うためにはどうしたらよいかを考える。また、学習の成果を捉える際の注意点として、個人差の考え方を理解する。

5 知的機能の老化

正常な知能の加齢変化の特徴を知るとともに、これまでに研究方法によって異なる結果が示されてきたことから、研究方法の特徴および重要性を理解する。さらに異常な知能の低下状態としての老年期痴呆について学ぶ。

6 高齢者の人格

高齢者の人格に関するこれまでの誤った捉えられ方、その背景について考える。また、高齢者の人格を理解するために人格の変容には何が影響しているかを知る。

【評価方法】

試験・授業への取り組み方等から総合的に評価する

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習
(経営管理・住生活)

【担当者】 佐藤美千子

【開講期】 前期

【授業目標】

家庭生活（生命および人間活動力再生産の営み）の経営管理および住生活領域についての基礎的事項を学び、家事・介護援助のあり方と社会的役割を考える。

【テキスト・参考書】

テキスト 宮崎礼子編 『家政学概論』 誠信書房

授 業 計 画

日本の高齢化は、生活のし方や価値観の大きな変化と重なって進展している。したがって、家事・介護援助に携わる者は、家族の多様なあり方への理解と、生活の様式や家族観が世代によって違いがあることへの洞察力をもつことが、きわめて重要となる。

そこで、授業では、家庭生活と住環境について、社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。

授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

1. 家族・家庭生活の現状
2. 生活周期・家族周期の変化と生活設計の課題
3. 生活時間、家事・介護労働、家事・介護援助
4. 経済生活、高齢者・障害者と消費者問題
5. 住宅の要件
6. 住宅改善の視点と効果
7. 高齢者・障害者と住政策

なお、実習では、生活時間調査や住宅の安全チェックなどを行なう。

【評価方法】

レポート 平常点

【授業科目名】 家政学概論（衣生活）	【担当者】 山本良子
【開講期】	前期
【授業目標】	生活基盤をなす、家政学の概要を衣生活の分野について、必要な基礎的知識を概説し、介護者として老人や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考える。
【テキスト・参考書】	<p>テキスト：中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服（全国社会福祉協議会）</p>
授 業 計 画	
被服生活について、具体的に下記の項目について概説する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 被服の役割と機能、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服の役割 ②被服の機能 2) 被服の素材と品質表示、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服材料の種類 ②被服繊維 ③被服材料の加工 3) 被服と保健衛生、 <ol style="list-style-type: none"> ①被服と体温調節 ②衣服気候 ③衣服の重量と拘束性 ④環境と被服 ⑤汚れと被服 ⑥衣料障害 4) 被服の管理 5) 被服の選択 <ol style="list-style-type: none"> ①被服の消費性能 ②被服品と品質表示事項 ③寝具 6) 老人、障害者と被服、 	
【評価方法】	レポート課題による。

【授業科目名】 家政学実習 (衣生活)	【担当者】 山本良子
【開講期】 前期	
【授業目標】 <p>実習では講義内容の理解を深めるための技能を実習し、家庭生活に必要な実践的経営、管理能力を学ぶことを目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>参考書：大谷陽子編著 家政学実習 建帛社</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実験、 素材表示に示されている繊維の簡単な見分け方の実習、 (顕微鏡観察、燃焼性、薬品による溶解、染色性など、)</p> <p>2) 布地の性能に関する実験 布地の種類、構造の観察実習、 吸湿・吸水性、保温性、収縮性、剛軟性、防しわ性など、</p> <p>3) 被服管理実習 市販洗剤の表示の検討、漂白剤の種類および主成分の調査、 柔軟剤の使用効果、しみ抜きの方法、</p> <p>4) 老人、障害者のための被服のデザイン・構成および着脱の工夫、 使いやすい被服の検討、</p>	
【評価方法】 実習レポート	

【授業科目名】 家政学概論・家政学実習（食生活）	【担当者】 北 郁子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者にとって、心満たされる食事は最大の楽しみであり直接生きる意欲につながる。介護者としてそのような食生活を作り出せる基礎的知識と介護のあり方を深めることができることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「栄養・調理」介護福祉養成講座9巻 中央法規出版 その他</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 栄養とエイジング</p> <p>2. 生命現象をどう考えるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が生き生きと生きて行くためには、人体を構成する細胞が必要とする栄養素を過不足なく取り込み、それをを用いて栄養の営みをする過程を理解させる。 <p>3. 高齢者の食生活の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体面・精神面・社会経済面での特性 ・食生活について高齢者のための食生活指針から考えてみる。 <p>4. 高齢者の栄養所要量と食品構成。特にその個人化</p> <p>5. 食べ物のおいしさの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者においしく食べていただくには <p>6. 食べ物の選択と調理</p> <p>歯が悪くなった人に。飲み込みが悪くなった人に。成人病の人に。</p> <p>7. 供食の仕方と食事介助について</p> <p>人間らしい、人間の尊厳が失われない食事を中心として</p> <p>以上を理論と実習、ビデオ等を通じて理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験，感想文及びレポート</p>	

【授業科目名】 介 護 概 論	【担当者】 関谷 栄子
【開講期】 前 後 期	
<p>【授業目標】 高齢者や・障害者の生活の維持向上をはかり、快適な生活を過ごすことが出来るように直接的なケアの理論と方法を学びかつ介護の周辺の状況を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人々の生活を理解する。 2. 介護の目的、目標、原則、機能、範囲、介護計画、専門性等について理解する 3. 介護の関連領域、関係職種との連携、家族や地域社会における位置づけについて学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>検討中</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の目的、目標、原則、機能、範囲、介護計画、専門性について学ぶ 2. 高齢者・障害者の生活を理解する。 3. 健康維持のメカニズム、障害、疾病時のケア、終末ケアなどの理解 4. 介護の原則、安全・安楽、日常生活行動の改善、残存機能の維持、QOLについて学ぶ 5. 介護の技法について学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 健康状態の観察技術 生活行動の援助技術（呼吸確保 食、排泄、清潔、衣類・寝具の整備、運動移動、睡眠、有害環境からの保護、コミュニケーション 社会的行動の援助（職業、生きがい、教育、宗教、レクリエーション、社会参加等） 特殊な場面の介護技術（医療・看護対応の介護、与薬、感染予防、救急処置 事故対応、終末ケア） 6. 介護提供の場（施設、短期利用施設、在宅ケア等） 7. 介護関係、関係職種との連携の理論と方法 8. 介護計画、介護の評価の方法 9. 家族及び利用者への介護指導の方法 10. 介護職員の安全、健康管理 	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト及びレポート</p>	

【授業科目名】 介 護 技 術	【担当者】 関谷栄子
【開講期】 前 後 期	
<p>【授業目標】 高齢者や・障害者の生活の維持向上をはかり、快適な生活を過ごすことが出来るように直接的なケアの方法を学びかつ実施評価する方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人々の生活を理解する方法を学ぶ。 2. 日常生活行動における介護の技術を学ぶ。 3. 介護に必要な各種の福祉機器、住居設備機器についての知識と応用技術を学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">検討中</p>	
授 業 計 画	
<p>介護概論と平行して介護技術の実習や演習形式を多く取り入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の目的、目標、原則、について学ぶ 2. 介護の過程 介護のニーズ、介護計画、実施・評価の方法について学ぶ。 3. 基本的な介護技術について 介護のマナー 4. 観察技術、コミュニケーション 5. 生活行動の援助技術（呼吸確保 食、排泄、清潔、衣類・寝具の整備、運動移動、睡眠、有害環境からの保護、 社会的行動の援助（職業、生きがい、教育、宗教、レクリエーション、社会参加等） 特殊な場面の介護技術（医療・看護対応の介護、与薬、感染予防、救急処置 事故対応、終末ケア） 6. 記録・事例検討の方法 7. 介護関係、関係職種との連携の理論と方法 8. 家族及び利用者への介護指導の方法 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">テスト・レポート及び実技試験</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（老人）	【担当者】 木下安子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に指定しないが、課題に応じて文献、マスコミの報道資料等を活用する</p>	
授 業 計 画	
<p>授業方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴に関する書籍、資料を自主的に読み、その特徴・課題・介護方法を研究する。 2. 集団学習（ワークショップ）によって深め、互いの知見を交流する。 <p>学習のすすめかた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する文献（単行本）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を、各自の興味にしたがって探索する その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する。 — 問題発見 — 2. 明らかになった高齢者に関する課題を整理し、分野別にグループをつくり、内容を深める学習をし、その結果を発表、討論する。 — ワークショップ — 3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、次に掲げるテーマでレポートをまとめる。 — レポート作成 — レポートテーマ 高齢者をめぐる諸環境についての分析し、高齢者の介護の課題とこれからの方向 	
<p>【評価方法】 — レポート作成 — 評価は学習過程全体で行う</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（聴覚障害）

【担当者】 貞廣邦彦

【開講期】

前期

【授業目標】

聴覚障害者の福祉を考える場合、障害がもたらすさまざまな問題を把握することと、コミュニケーションの保障について理解することが必要条件といえます。福祉の条件を考え、手話の表現力を養いたい。

【テキスト・参考書】

「わたしたちの手話（１）」全日本ろうあ連盟発行

「手にことばを（初級用）」東京都聴覚障害者連盟発行

授 業 計 画

聴覚障害者の生活の中で、情報が果たす役割の重要性を認識するとともに、コミュニケーションの方法としての手話の社会的位置づけについての理解を深め、手話の表現技術を習得する。

- (1) ろう教育と手話の成り立ち
- (2) 聴覚障害者の社会生活と手話の発想
- (3) 手話の基礎的表現と指文字
- (4) 生活場面での手話表現と読み取り
- (5) 歌詞の手話表現
- (6) 問いかけと応答の表現
- (7) 手話の特徴と短文の表現
- (8) 聴覚障害者との手話演習
- (9) 日常会話の表現と読み取り
- (10) 手話通訳の基礎的練習

【評価方法】

授業への出席状態と筆記試験によって評価する。

【授業科目名】 障害形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	【担当者】 関谷 栄子
【開講期】 前 期	
<p>【授業目標】 身体障害者の特性に応じた介護に関する知識技術を習得する。</p> <p>1. 身体障害者の於かれた条件に対応した介護の知識と技術を習得する。</p> <p>2. 介護に必要な各種の福祉機器・用具の知識と使用方法を習得する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>検討中</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 身体障害者の行動様式を理解し介護のあり方を学ぶ。</p> <p>2. 脳・神経疾患とその後遺症 内部障害 骨関節疾患 難病 などの特徴と介護の方法を学ぶ。</p> <p>3. 障害を持つ人々の心理や障害に応じた生活支援の方法を学ぶ。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト・レポート及び実技試験</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（視覚障害）

【担当者】 直居鉄

【開講期】

後期

【授業目標】 視覚障害による日常生活上の障害を大別すれば、運動機能に障害がないにもかかわらず、歩行・移動が困難であること、文字や映像による情報の獲得が障害されるという二つになる。視覚障害に関する医学的知識と視覚障害者の日常生活に関する情報を基礎として、介護技術としては、歩行・移動の介護と点字の読み書きの基本的な知識・技能の習得を目的とする。

【テキスト・参考書】

視覚障害者の介護技術 点字の本

授 業 計 画

1. 視覚障害と関連医学の基礎知識
目の構造と働き
 2. 視覚障害の原因となる病気
近視、遠視、白内障、糖尿病性網膜病、緑内障、網膜変性、バーネット症、未熟児網膜症、網膜芽細胞腫など
 3. 残存感覚機能の特性と活用
聴覚、触覚、嗅覚、味覚などの活用
いわゆる「かん」について
 4. 視覚障害者（見）の実態
視覚障害者数、視力の程度と身体障害者福祉法による等級
視覚障害者（見）の教育、職業の現状
 5. 視覚障害（見）に対する福祉措置
補装具、日常生活用具
感覚代行機器の現状
国、地方における行政措置
 6. 視覚障害者に対する言葉づかい
視覚障害者に対する呼び方、挨拶の仕方、視覚障害者との会話
 7. 視覚障害者の歩き方の基礎知識
白い杖、手引きの基本的な姿勢
 8. 視覚障害者の案内の仕方
買い物、会合への案内、会食、映画、演劇、美術館、博物館などの鑑賞
 9. 各種乗り物、トイレ、浴場などの利用
 10. 日常生活の介護
身の整理、整頓、清掃
日常生活の介護についての基礎知識
 11. 情報障害の介護
日常生活に必要な文書の読み書き
- ※点字の指導内容は省略する

【評価方法】

学習態度 レポート

【授業科目名】 実習指導	【担当者】 真保雅子・西方規恵
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 1. 介護実習を円滑に進めるために必要な知識・技術を修得する。 1) 介護の対象者、施設設備、施設職員についての全般的な理解 2) 記録の在り方（実習記録、個別援助計画に向けて） 2. 個別援助計画を立案・実践し、実践記録を発表する。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ①「実習指導」の授業形態について理解する ②「介護実習」の意義とすすめ方を知る 2. 実習施設についての学習 <ol style="list-style-type: none"> ①特別養護老人ホーム ②救護施設・身体障害者療護施設 3. I期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①I期実習で学ぶことを理解する ②I期実習目標を立てる (実習前面接) <p>《I期実習》5/19～5/31</p> 4. I期実習反省会 <ol style="list-style-type: none"> ①1期実習で学んだことの整理 (自己評価、面接を含む) ②II期実習に向けての課題設定 5. II期実習オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ①II期実習で学ぶことを理解する ②実習記録の内容を深める ③II期実習目標を立てる (実習前面接) ④夏期休業中の課題を確認する 《II期実習》9/ 1～9/13 	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. II期実習反省会 実習から学んだ介護職員・施設のあり方をまとめる。 2. III期実習オリエンテーション ① III期実習で学ぶことを理解する ・チームの一員としての介護とは ・個別援助計画とは 3. 個別援助計画とは <ol style="list-style-type: none"> ①事例から学ぶ ②計画立案から実践までの流れを理解する ③モデルケースを使い計画を立ててみる 4. III期実習オリエンテーション ② III期実習の目標を確認する (実習前面接) 《III期実習》11/10～12/ 6 5. 実践した個別援助計画を振り返る <ol style="list-style-type: none"> ①個別援助計画(ケーススタディ)の実践記録を完成させる ②ケーススタディ発表会抄録を作成する ③記録の重要性について理解する ④自分の記録をもとに学ぶ 6. ケーススタディ発表会
【評価方法】 平常点 実習記録（ケースレポートを含む）	

【授業科目名】 介護実習	【担当者】 関谷栄子・真保雅子・西方規恵
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】 1. 介護実習を通して、介護の対象者とその「暮らし」の理解、施設設備や施設職員のあり方についての理解を深める。</p> <p>2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。</p> <p>3. 介護福祉士としての介護観を養う。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 介護実習は、48日間をⅢ期に分けて行われる。各期の実習目標は以下の通り。</p> <p>I期 (予定) 5月19日(月)－5月31日(土)まで</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な障害を持ちながら施設で暮らしている居住者の、日々の暮らしの様子を理解する。 ・ 居住者への日常生活援助がどのように行われているかを知る。 ・ 介護活動に部分参加し、基本的な日常生活援助に必要な介護技術を修得修得する。 <p>II期 (予定) 9月 1日(月)－9月13日(土)まで</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居住者の施設利用までの経緯や現在の生活の様子を把握し、適切な生活援助とは何かを考える。Ⅲ期のケーススタディの準備もあわせて行なう。 ・ 他の施設職員の業務内容を理解し、介護職員との連携の実際を学ぶ。 ・ 地域で暮らす高齢者の生活を支える様々なサービスを体験学習する。 <p>Ⅲ期 (予定) 11月10日(月)－12月6日(土)まで</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居住者への援助を総合的に理解し、チームの一員として介護に参加する。 ・ 「個別援助計画」を立案・実践し、自分の介護観の形成を目指す。 <p>特別養護老人ホーム1－2カ所、救護施設または身体障害者療護施設1カ所で実習する。学校から提示された施設以外では実習できない。(厚生省指定による)</p> <p>2. 介護実習の前後に「実習指導」が週1－2校時あり、実習の進め方の詳細は「実習指導」で解説し、学習する。</p>	
<p>【評価方法】 平常点 実習施設からの評価 実習記録(ケースレポートを含む)</p>	

【授業科目名】 介護福祉特講 (レクリエーション)

【担当者】 三木和子

【開講期】

前期

【授業目標】

介護サービスの中におけるレクリエーション援助の意義と目的を理解し、援助技術の習得を目指す。

【テキスト・参考書】

テキスト 「福祉レクリエーション実践マニュアル」中央法規出版

授 業 計 画

1. レクリエーションの概念
増大する余暇と一般的なレクリエーションの提え方
2. 福祉分野におけるレクリエーション
レクリエーション援助の意義と目的
3. 体験学習 その1. 基本的な対人援助技術
コミュニケーションの技法を中心に
4. レクリエーションの計画
アセスメント、企画、実施、評価の各段階における留意点について
5. 体験学習 その2. プログラムの展開と実際の援助
における留意点とは
6. レクリエーション援助者に求められること

【評価方法】

ペーパーテストによる (出席状況も考慮して)

【授業科目名】 介護福祉特講（ 老年医学 ）

【担当者】大倉透

【開講期】 前期

【授業目標】

老年医学の、概要を述べる。介護に当たっての、注意事項や、どのようにすれば
高齢者にとって、快適な介護を受ける事ができるか、介護にともなう危険を防止
できるか、実際に即した介護法を、理解できるようにする。

【テキスト・参考書】

テキスト：大倉 透：ボケの予防・治療・介護（創芸社）

授 業 計 画

テキストを中心に、以下の項目にしたがって、講義する。老人介護に必要な病
気の知識、病気の成立について、診断法、治療法、さらに、予防法およびリハビ
リテーションまでを、述べる。

1 総論

- A 老化（加齢）現象とは
- B 病気の分類
- C 老人病とは

2 各論

- A 脳血管障害
- B 心疾患
- C ガン
- D 痴呆
- E 骨折と骨粗鬆症
- F 関節リウマチと関節疾患
- G 呼吸器疾患
- H 消化器疾患
- I 泌尿器疾患
- J その他

3 死の判定

4 救急処置

5 老人の在宅ケア・地域ケア

6 老人と栄養

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 社会福祉制度政策論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期および後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講は、社会福祉主事任用資格を取得する学生にとっては必修科目ですが、取得しない学生には選択科目として位置付けられています。しかし、主事任用資格取得の有無に関わらず、できるだけ多くの学生に履修をお勧めします。</p> <p>前期は、保育、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、公的扶助などを巡る諸制度、諸政策の歴史的変遷と現在、そしてこれからどう変化していこうとしているかを、住民（児童、障害者、老人その他一般住民）の生活との関連で概括します。</p> <p>そして、制度政策を考える視点を、生存権保障に置き、憲法、社会福祉諸法、各種憲章、権利条約等とおして自らを築き上げられるようにします。</p> <p>後期は、社会福祉制度が、具体的にどうなっているかを理解できるようにし、年間を通して、保育・介護現場に立つ者としての最低限の認識を身につけることを目標にします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>前期はプリントやビデオを中心に、後期は「日本の福祉はどこに行くのか」を使用します。その他は授業時に提示します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>前期は、育児、保育、介護などを巡る実態をもとに、授業目標に掲げた内容にそって、プリントやビデオを題材に、短時間でもなるべくグループ・ディスカッションを取り入れ授業を進めます。</p> <p>また、夏期休暇中の公立保育所採用試験やその後の保育所、老人福祉施設などの就職試験受験対策を兼ねながら、小論文（作文）作成の方法や内容についても検証します。</p> <p>また、後期は、テキストを中心に、前期同様グループ・ディスカッションを取り入れる努力をしながら進めます。</p> <p>内容的には、高度な内容の授業ですが、ひとつひとつ丁寧に進めていくつもりです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験は、レポートとします。出席状況は重視します。日常の授業への取り組み姿勢など、その総合点で評価したいと思います。</p>	

【授業科目名】 障害福祉論	【担当者】 尾島豊
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害者問題の特質とその背景、障害の概念、障害者福祉に関わる法律や制度の概要など、専門援助者として関わる上で必要な基本的な考え方と知識を学ぶ。またノーマリゼーションの理解などを通して障害者問題に対する問題意識を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：大野智也『障害者は、今』岩波新書 参考書：手塚・加藤編『障害者福祉論』ミネルヴァ書房</p>	
授 業 計 画	
<p>前半は、障害者福祉に関わる制度の概要の紹介が中心となる。身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉制度、また教育や雇用などの関連する制度の概要を理解することが中心となる。後半は、学生各自の報告やグループディスカッションなどを取り入れながらテキストを読み、現状の障害者の生活問題に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>序．オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．障害の概念について 2．障害者福祉の法律と制度、関連制度 3．『障害者は、いま』の講読とディスカッション 	
<p>【評価方法】</p> <p>①学期末レポート提出 ②講義への出席・参加状況</p>	

【授業科目名】 家族福祉論

【担当者】 浅井春夫

【開講期】 後期

【授業目標】

- ①家族福祉の基本的枠組み、諸理論を学ぶ
- ②各分野の家族福祉の具体的課題を深める
- ③わが国における家族福祉の動向について学ぶ

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：授業のなかで紹介する

授 業 計 画

- (1)いま世界と日本の家族に何が起きているのか
- (2)「女らしさ」「男らしさ」からの解放
- (3)家族福祉の視点とは何か－家族福祉の概念
- (4)高齢者問題からみた家族福祉－福祉サービスの内容
- (5)障害児問題からみた家族福祉－スティグマ観の検討
- (6)精神障害者問題からみた家族福祉
- (7)ディベート福祉制度改革はどうすすめられるべきか
- (8)ディベート介護の担い手は女性が適しているか否か
- (9)地域問題からみた家族福祉
- (10)援助方法からみた家族福祉
- ⑫現代の社会福祉政策動向と家族福祉の展望

【評価方法】

出席状況とレポート提出

【授業科目名】 社会福祉調査法	【担当者】 森山 治
【開講期】 後期	
【授業目標】 1. 社会福祉調査に関する基礎的な知識を身につける。 2. 調査結果の分析や検証に必要な最低限の統計知識を身につける。 3. 調査や統計が身近なものとなるように受講者の理解をすすめる。	
【テキスト・参考書】 テキスト 「図説東京の福祉実態」95年版 萌文社（秋に97年度版発行予定） 参考書 「地域認識と地域調査」 田口正巳著 埼玉県コミュニケーションセンター 「統計でウソをつく法」 ダレル・ハフ著 講談社ブルーブックス	
授 業 計 画	
<p>社会福祉調査法は、介護福祉士養成のカリキュラムとしては、社会福祉援助技術の一つ（間接援助技術）と定められています。しかし、社会福祉の仕事にたずさわる者が、必ずしも調査を専門の仕事とするわけではありません。むしろ、調査対象者となる機会が多いのが実状です。</p> <p>そこで、授業の目的としては、高度な調査技術論に視点をおくのではなく、調査や統計が身近な存在として理解できるようになることを目的とします。</p> <p>授業の進め方としては、前半は調査法や統計の基本的な知識を身につけることに視点をおき（ノート筆記中心）、後半は、実際に行われた調査や保健・医療・福祉分野の行財政比較（テキスト使用）など、具体的なものをとおして学習していく予定です。</p> <p>参考文献の「地域認識と地域調査」は、比較的分かりやすく書かれた調査法のテキストです。「統計でウソをつく法」（副題、数式を使わない統計学入門）は、統計や調査に親しむのに最適な読み物です。</p>	
【評価方法】 試験期間中に試験を行います。	

【授業科目名】 社会福祉援助方法論	【担当者】尾島豊
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉に固有な方法としてのソーシャル・ワーク実践の専門性（価値・知識・技術）のあり方を学ぶ。職業としての社会福祉援助の意味、援助関係を形成し、援助過程を展開する上で必要な基礎的な概念を理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：武井・春見・深澤共著『ケースワーク・グループワーク』光生館 参考書：モフェット著『ケースワーク入門』川島書店 バイスティック『ケースワークの原則』（新訳版）誠信書房</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業では、保育・介護福祉の職業に就く者として必要な、社会福祉の方法論の基礎を改めて学ぶ。保育にも介護福祉にも共通する対人援助活動における基本的な考え方に関するテーマが中心となる。社会福祉の現場で、どのように学校や書物で得た知識を活用するのか。対人援助という個別的な関係を通じて、社会的サービスを提供するとはどのような実践をいうのか。そして援助者の側も援助活動を通して自らも成長できるという意味で、福祉の仕事を見直すきっかけになればと思う。</p> <p>序. オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における方法・技術 2. 社会福祉の価値 3. 社会福祉の専門性 4. ケースワークの基礎 5. 事例研究 6. ソーシャル・ワーク論の歴史と理論 	
<p>【評価方法】</p> <p>①学期末レポート提出 ②講義への出席・参加状況</p>	

【授業科目名】 社会福祉特別演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>地域福祉を基軸とした社会福祉の再編成がなされている現状と課題を理解し、そこでのソーシャルワークの方法について、具体的に学ぶことを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業時に適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの主体とプロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)主体 (2)プロセス 2. コミュニティワークを中心とした援助技術の再構築 3. 地域福祉機関におけるソーシャルワークの展開 <ol style="list-style-type: none"> (1)地域福祉相談活動 (2)小地域ネットワークづくり (3)当事者家族の組織化 (4)ボランティア活動への支援 (5)在宅福祉サービスの開発と組織化 (6)地域福祉活動計画の策定と実施 4. 事例研究 <p>(なお、本演習において実習の事前・事後指導を行う。)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と主体的学習態度、学期末レポートにより評価する。</p>	

【授業科目】 社会福祉実習	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 専攻科共通 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この実習は「社会福祉主事任用資格」取得希望者を対象に福祉事務所や児童相談所などの社会福祉専門行政機関、老人ホームや精神薄弱者援護施設などの社会福祉施設（原則として児童福祉施設を除く）で行うものとしします。</p> <p>実習をとおして、施設利用者の生活実態と機関・施設の役割を理解し、考える力をつくと共に、援助技術について学びます。</p>	
<p>【本実習及び事前・事後指導】</p> <p>配属実習は7月下旬から8月上旬にかけての12日間を標準として実施します。実習の事前・事後指導は、社会福祉特別演習の時間帯およびその他別途提起します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習機関からの評価を基礎に、実習への取り組み方、実習のまとめ等を総合的に判断し行います。</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期・後期	
【授業目標】 福祉にかかわって問題とされることがらを各自選び、その課題解明を試みる	
【テキスト・参考書】 各担当教員の指示による	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月入学後、オリエンテーションを受けた後、学生各自がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定（教員1人当たり5～10名の学生が配属） 3. 担当教員の指導を受けながら研究作業をすすめる。 4. 11月に予定の修研中間発表会で報告する。 5. 2月修研提出する。 6. 2月修研発表会で研究成果を報告する。 	
【評価方法】 各自修研（論文）により評価する。	

学籍番号・

氏名・

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619